

**GOSSEN**  
Made in Germany

# Starlite 2

ゴッセン スターライト2

取扱説明書

# 1 はじめに

この度は GOSSEN Sterlight2 をお買い上げいただき、ありがとうございます。  
この製品を安全で快適に、より長くご愛用いただくためにもご使用前に必ず本書をよくお読みいただき、正しくご使用下さい。正確で一貫性のある露出のための操作方法をご理解ください。撮影前に常にテストを行うことをお勧めします。

<b>1</b>	はじめに	2
<b>2</b>	取扱上のご注意	3
<b>3</b>	各部の名称	4
<b>4</b>	使用前の準備	5
<b>5</b>	ディスプレイパネル	6-7
<b>6</b>	操 作	8-9
<b>7</b>	スターライト2の使い方	10
<b>8</b>	定常光測光	11-13
<b>9</b>	フラッシュ光モードでの測定	14-15
<b>10</b>	測定範囲／表示範囲を超えた場合	15
<b>11</b>	補正值の設定	16
<b>12</b>	シネ設定	17
<b>13</b>	照度設定	18
<b>14</b>	仕 様	19

## 2 取扱上のご注意

以下に記載の事項が守られず、不適切な取り扱いによる損傷については保証の対象外となりますのでご注意ください。

- ※本機は精密機器ですので大きな振動や衝撃を与えないようにしてください。
- ※本機を分解しないで下さい。また内部に触れないように十分ご注意ください。
- ※水などの液体やその他の異物が入らないように十分ご注意ください。
- ※温度が極端に低い場所、または高い場所でのご使用・保管はなるべく避けてください。特に直射日光の当たる場所での保管自動車内での長時間にわたる放置は温度上昇の原因となるのでご注意下さい。
- ※スターライト 2 の電池室カバーは、開いた時に本体から外れるように設計されています。電池の交換の際はこのカバーを落として紛失したり破損しないようにご注意下さい。

**安全のために：人身事故や怪我などを防ぐために以下の事項をお守りください。**

### ⚠️ 本機が正常に作動しない場合は速やかに電源を切ってください

煙や異常な臭気が出ている場合、発火などに至る場合もあります。速やかに電源を切り、電池を取り除いた上で、お求めいただいた販売店、または株式会社駒村商会カスタマーサービスにご連絡ください。本機をお送りになる場合は抜いた電池も同梱してください。そのまま使用した場合、重大な事故に発展する恐れもあります。

### ⚠️ 可燃性ガスの近辺で使用しないでください

本製品は精密電子機器です。絶対に電子機器を可燃性ガスの近辺で使わないでください。爆発や火災に発展する場合があります。

### ⚠️ ストラップを幼児の首に掛けないでください

幼児の首に掛けたりすると窒息などの重大事故に発展する恐れがあります。

### ⚠️ 幼児の手の届かない場所で保管してください

本機やアクセサリーには幼児が誤って飲み込む恐れのある小さな部品（外装カバーや電池など）が使われています。幼児の手に渡ると重大事故にいたる場合があります。

### ⚠️ 正規のケーブルを使ってください

外部接続を行う場合は正規のケーブルのみを使ってください。他のケーブルを使った場合のトラブルの責任は負いかねます。

### ⚠️ 分解しないでください

内部の部品には絶対に手を触れないでください。負傷する場合があります。ご自分で修理を試みたりしないでください。的確な修理要員に任せてください。落下やその他の原因で外装が損傷した場合は電源を切って電池を抜いてから修理を依頼してください。

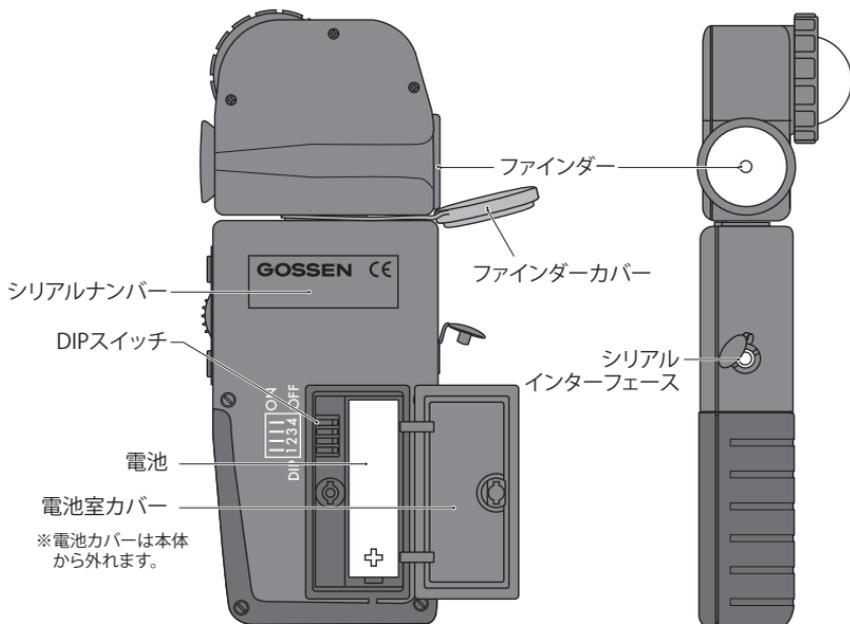
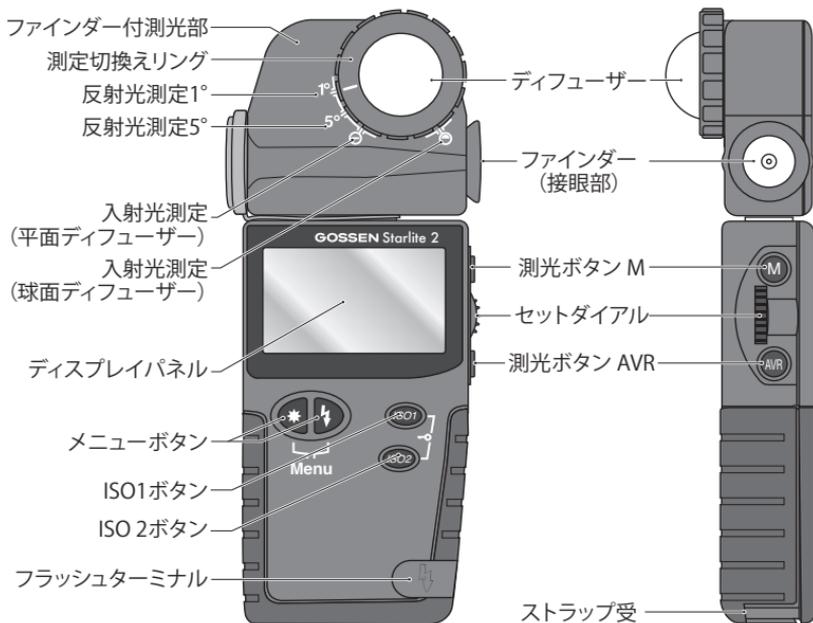
### ⚠️ 液晶との接触を避けてください

ディスプレイが損傷すると、割れたガラスの破片や漏れた液晶との接触が発生することがあります。液晶が皮膚や目、口などに接触することがないように注意してください。

### 廃棄に関して

本製品および電池を廃棄する際は、お住まいの地方自治体の廃棄処分方法に従ってください。

### 3 各部の名称



## 4 使用前の準備

### 1. 電池

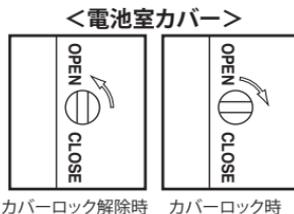
スターライト 2 は、単 3 のアルカリマンガン乾電池 1 本で作動します。電池が消耗した場合、測定値とともに **BAT** がディスプレイに表示されます。この表示が出たら、できるだけ早く電池を交換して下さい。**BAT** が単独で表示されるようになると、測定は不可能になります。すぐに電池を交換して下さい。

電池を交換する時は、電池室のカバーを開け、古い電池を取り外し、新しい電池を + の極性に注意して取り付け、カバーを閉じて下さい。

#### <電池室カバーの開け方>

コインなどを使ってカバーの窪みを図 2 のカバーロック解除時の状態にし、カバーを開けて下さい。

※カバーは本体から外れます。

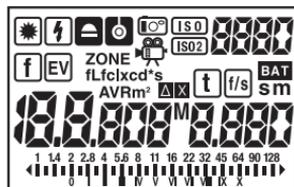


### 2. 自己診断

電池を交換した場合、自動的に自己診断を行います。

自己診断は約 10 秒で完了し、この間すべてのディスプレイセグメントが表示されます。診断中にいずれかのボタンを押すと診断を中止します。診断が完了すると、工場出荷時のデフォルト値が自動的に設定されます。

ISO : 100/21°  
ISO2 : 50/18°  
f : 5.6  
EV : 12  
f/s : 24  
△ X : 0/1.0  
t : 1/125  
Flash : f 1/60



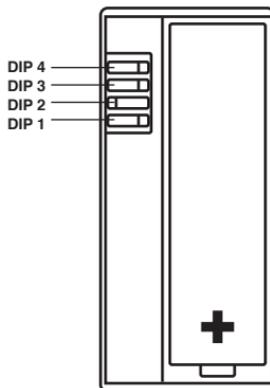
### 3. ファンクショングループの選択

電池室内部の DIP スイッチの設定

スターライト 2 は、標準の機能に加え、電池室内部の DIP スイッチの設定により機能を追加することが可能です。

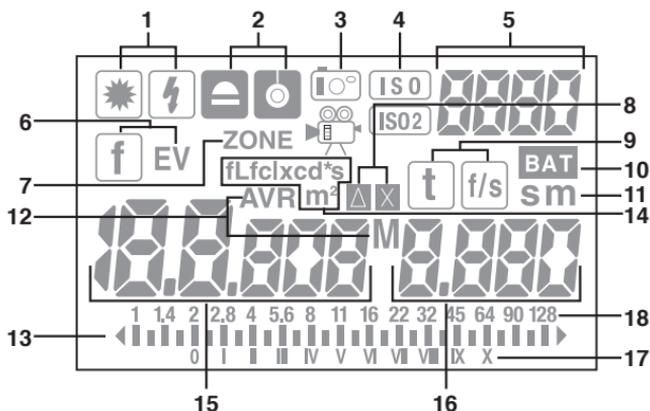
- DIP1... スチル写真モード/シネ及び照度計モード切り替え
- DIP2... シャッタースピード 1 ステップ / 1/2 ステップ切り替え
- DIP3... 照度計表示単位切り替え
- DIP4... 測定モード切り替え (ゾーンシステム)

Zone System	4	-
fc fl	3	lx cd/m <sup>2</sup>
1/2 t-Steps	2	1/1 t-Steps
CINE	1	STILL



## 5 ディスプレイパネル

### 1. ディスプレイパネルの表示エレメント



1	ファンクション	定常光		10	電池消費警告	<b>BAT</b>
		フラッシュ光			11	s(秒) - m(分)
2	測光ヘッド	入射光測定		12	AVR (平均) - M(メモリー)	<b>AVR M</b>
		反射光測定		13	アナログスケール	
3	測定モード	スチル写真モード		14	露度計表示モード	・照度 ・光度 ・時間積分値
		シネおよび照度計モード			左側ディスプレイ	
4	フィルム感度	ISO ISO2		15	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絞り(f)</li> <li>・EV値</li> <li>・補正值</li> <li>・ゾーン</li> <li>・マルチフラッシュ</li> <li>・平均値/測定回数</li> <li>・フラッシュ準備完了</li> <li>・照度計測定値</li> </ul>	
5	フィルム感度表示	0000		16	右側ディスプレイ	
6	ディスプレイシグナル	f EV			<ul style="list-style-type: none"> <li>・露出時間(t)</li> <li>・補正值</li> <li>・フラッシュ計算/回数</li> <li>・シネスピード(f/s)</li> </ul>	
7	ディスプレイシグナル	ZONE		17	ゾーンスケール	0 I II III IV V VI VII VIII IX X
8	補正表示			18	絞りスケール	1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90 128
9	ディスプレイシグナル	t f/s				

## 2. ディスプレイのバックライト照明

使用環境が暗い場合（およそ EV4 以下）、ディスプレイのバックライトが自動的に約 10 秒間点灯します。

## 3. 表示継続時間

約 2 分間何も操作が行われないと、電源が自動的に OFF となります。測定値及び設定された値はメモリーに記憶されています。

- いずれかのボタンを押すことにより、測定値を呼び出せます。
- 測定ボタン **M** を押すことにより、新しい測定が行われます。最後に測定された値は、次の測定が行われるまではメモリーに記憶されています。スターライト 2 は、定常光用とフラッシュ光用の 2 つのメモリーを備えています。

## 4. キーロック

不用意に電源が入るのを防ぐためにキーロックを行うことができます。

キーロックするには、**ISO1** と **ISO2** ボタンを同時に押します。

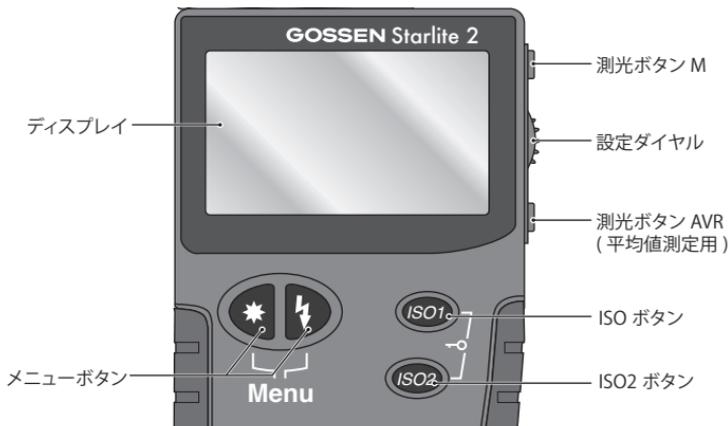
ディスプレイには **OFF**、**ISO**、**ISO2** が 3 秒間表示され、自動的に電源 OFF となります。

さらにいずれかのボタンを押すと、再びディスプレイには **OFF**、**ISO**、**ISO2** が 3 秒間表示されます。

キーロックを解除するには、ロック中に再度、**ISO1** と **ISO2** ボタンを同時に 1 ～ 2 秒くらい押し続けます。



## 6 操作

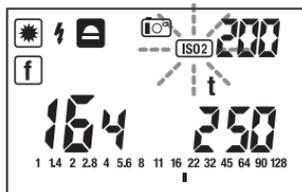
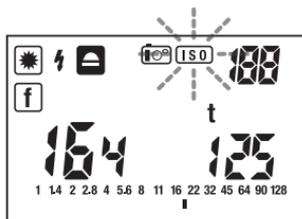


### 1. ISO 感度設定

ISO1 ボタン 、ISO2 ボタン  で、2つの異なる感度を設定することができます。

- 感度を設定するには、 または  ボタンを押します。押している間、それぞれの表示が点滅します。
- 設定ダイヤルを回して、希望の感度に合わせます。設定された感度は、ディスプレイパネルの右上に表示されます。

 ボタンを押すと、最後に測定された値が換算されて (シャッタースピード/絞り) 表示されます。感度設定を変更すると、最後に測定された値を新しく設定された感度で換算します。



### 2. メニューボタン

メニューボタン  により、測光モード (定常光  / フラッシュ光 ) を選択します。メニューボタンを押したまま設定ダイヤルを回すことにより、シャッタースピード優先モード、絞り優先モード、EV モードの選択ができます。

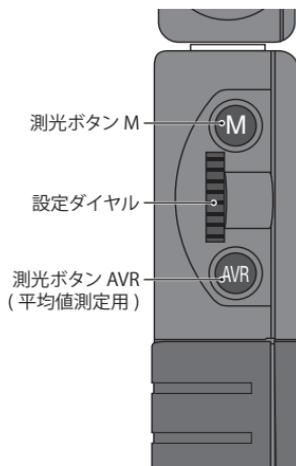
### 3. 設定ダイヤル

設定ダイヤルは、値や機能を変更する時に使用します。

- 定常光モード、フラッシュ光モード、ISO 感度の設定
- ゾーンの設定
- 測定後のシャッタースピード／絞りの組み合わせ呼び出し、マルチフラッシュ計算
- シネモードでのシャッター開角の選択

### 4. 測光ボタン **M** および **AVR**

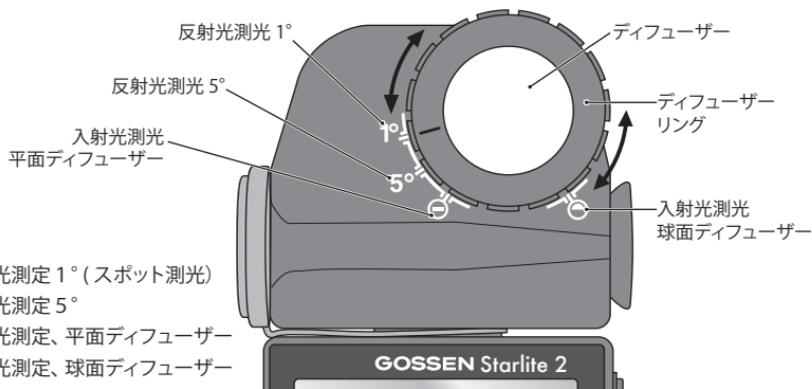
測光ボタン **M** を押すと、新規の測光を開始します。古いデータは、消去されます。測光ボタン **AVR** は、露出の平均値を求める時に使用します。



### 5. 測光ヘッド

測光ヘッドは、スターライト 2 の光学的な中樞部です。

ヘッドは、本体に対し、270°の自由な回転角を備えています。測光ヘッドのディフューザーリングを回すことにより、以下の測光モードを切り替えることができます。



- 反射光測定 1° (スポット測光)
- 反射光測定 5°
- 入射光測定、平面ディフューザー
- 入射光測定、球面ディフューザー

1°および5°の反射光測定用ビューファインダーは測光ヘッドに装備されています。ファインダー自体の視野角は約 12°です。

ご注意

測光ヘッドを、本来の回転角を超えて無理に回さないでください。破損の恐れがあります。

## 7 スターライト2の使い方

### 1. 入射光測定、球面ディフューザー

ディフューザーリングを回し、入射光測定、球面ディフューザー  に設定します。ディフューザーが上がり、ディスプレイには  が表示されます。

入射光モードによる測定では、カメラの方を向いた被写体に入ってくる光の量をディフューザーで測定します。従って、被写体のトーンをそのまま再現することができます。これは極端に明るい、あるいは暗い被写体の場合、特に重要です。露出設定の難しいコントラストの高い被写体の場合なども、信頼性の高い測定ができます。

### 2. 入射光測定、平面ディフューザー

ディフューザーを下げた（格納した）平面特性の入射光測定は、複写撮影の場合や、照度測定に適しています。ディフューザーリングを回し、入射光測定、平面ディフューザー  に設定します。ディスプレイには  が表示されます。

### 3. 反射光測定 (スポット測光)

ディフューザーリングを回し、 (反射光測定 1°) に設定します。ディスプレイに  が表示されます。ビューファインダーの一番内側の小さい円が測光部分に相当します。

カメラ側から被写体に向かい、ビューファインダーで測光したい部分を狙って、測光ボタン  および  を押して測定します。

スポット測光ですから、被写体の細かいディテールも正確に測光することができます。

反射光測定を行う場合、測定された値は必ず被写体の反射率と密接に関連していることに留意する必要があります。このため、明るい被写体は結果として比較的暗く表現され、適切な露出とならないことに注意してください。

反射光測定で適正な露出を得るには、18%の標準反射板を測定する方法があります。また、9点までの測定を行って、平均値を求める方法もあります。異なったコントラストの測定結果は、アナログ絞りスケールに表示されます。

### 4. 反射光測定 5°

ディフューザーリングを回し、 (反射光測定 5°) に設定します。ディスプレイに  が表示されます。ビューファインダーの外側の大きい円が測光部分に相当します。

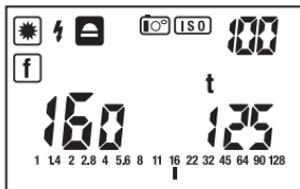
測光の方法、注意点については上記の **3. 反射光測定  (スポット測光)** を参照してください。

## 8 定常光測光

- メニューボタン  で定常光測定  を選択します。(前回の測定値が表示されます。)
- メニューボタンを押したまま設定ダイヤルでサブメニューを設定します。  
設定された機能は  で囲まれて表示されます。
- 値の変更は設定ダイヤル単独で行います。

### 1. 絞り優先モード

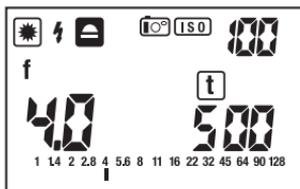
- 測光ボタン  を押して測定します。
- 測定された露出時間 (シャッタースピード) が右側デジタルディスプレイに表示されます。絞り値は、表示された露出時間に対応して、1/10 絞りステップに調整されて表示されます。アナログスケールの場合は絞り値が 1/2 ステップで表示されます。
- 絞りとシャッタースピードの組み合わせは、設定ダイヤルを回転させることで変更できます。



※絞り値を選択する時、今回の条件とは無関係に、前回測定された値が表示されます。

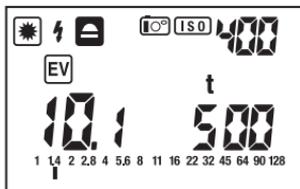
### 2. シャッタースピード優先モード

- 測光ボタン  を押して測定します。
- 測定された絞り値が左側デジタルディスプレイに 1/10 絞りステップで表示されます。アナログスケールの場合は絞り値が 1/2 ステップで表示されます。
- 絞りとシャッタースピードの組み合わせは、設定ダイヤルを回転して変更します。
- シャッタースピードは、標準の 1 ステップの他、DIP スイッチにより 1/2 ステップにも設定できます。



### 3. EV モード

- 測光ボタン  を押して測定します。
- 測定された EV 値が左側デジタルディスプレイに 1/10 ステップで表示されます。アナログスケールの場合は絞り値が 1/2 ステップで表示されます。
- 絞りとシャッタースピードの組み合わせは、設定ダイヤルを回転させることで変更できます。

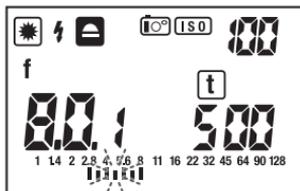
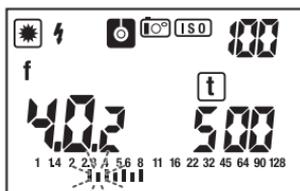


## 8 定常光測光

### 4. コントラスト測定 (シャッタースピード優先モードおよび EV モード)

#### 反射光測定

- 測光ボタン **M** を押したまま被写体のいろいろな部分を測定します。
- 最初の測定値が左側ディスプレイに表示されます。これは基準値として測定中、表示され続けます。(標準反射板での測定値の場合特に有効です) その瞬間の測定値は、アナログスケールに点滅表示されます。
- 測光ボタン **M** を離すと、測定されたコントラスト範囲がアナログスケール上に表示されます。



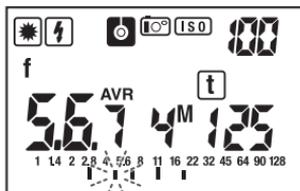
#### 入射光測定 (平面あるいは球面ディフューザー使用)

- 測光ボタン **M** を押したまま光源のいろいろな部分を測定します。
- 最初の測定値が左側ディスプレイに表示されます。これは、基準値として測定中ずっと表示され続けます。(標準光源での測定値の場合特に有効です) その瞬間の測定値は、アナログスケールに点滅表示されます。
- 測光ボタン **M** を離すと、測定された光源コントラスト範囲がアナログスケール上に表示されます。

### 5. 平均値測定 (シャッタースピード優先モードおよび EV モード)

#### 反射光測定

- 最初の測定は測光ボタン **M** を押して行います。
- 平均値測定用の測光ボタン **AVR** を押すことで、最大 8 回までの追加コントラスト測定ができます。測定値はそれぞれアナログスケールに表示されます。同一の測定値は 1 つしか表示されませんが、平均値を求める計算にはカウントされます。平均値測定用測光ボタン **AVR** を押すたびに、それまでの測定平均値が表示されます。これを表す **AVR** が左側ディスプレイに表示され、1/2 ステップにまるめられた絞り値がアナログスケールに点滅表示されます。ディスプレイ中央に測定回数が表示されます。(図は 4 回を示します)



### 6. シャッタースピード設定の選択

標準で設定されている、1 ステップのシャッタースピード (露出時間) 設定に加え、1/2 ステップも、電池室内部の DIP スイッチ (DIP2) により設定できます。(5 ページ参照)

DIP 2



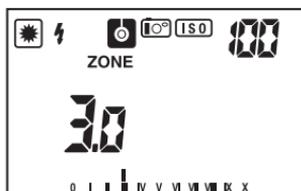
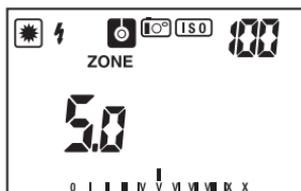
## 7. ゾーンシステムモードでの測定

この機能は、主にモノクローム写真の分野で、被写体のコントラストを分析する目的に用いられます。最終的にフィルムやプリントのコントラストを決定する条件は被写体の明るさの他に数多くあり、ゾーンシステムについて興味のある方は専門の解説書をお読みください。

### ゾーンシステムモードでの測定

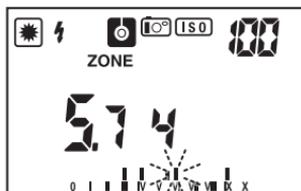
スターライト 2 は、被写体のさまざまな部分の明るさを予め設定されたゾーンスケール上に表示する機能をもっています。このモードを使用するには、電池室内部の DIP スイッチ (DIP4) をアクティブに設定します。(5 ページ参照)

- ディフューザーリングで反射光測定 1° に設定します。
- 左側メニューボタン  を押しながらか設定ダイヤルを回して **ZONE** を選択します。
- ビューファインダーで、被写体の最も暗い部分で、しかもディテールを表現したい部分を狙います。
- 測光ボタン  を押して測光します。測定された値が自動的にゾーン V に設定されます。
- 設定ダイヤルを回して設定したい最暗部ゾーンにセットします。(例ではゾーン III)
- この後、測光ボタン  で被写体のさまざまな部分を最大 8 ケ所まで測定します。ディテールを表現したい重要なハイライト部分を含めることが必要です。

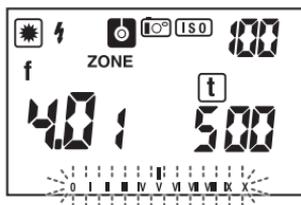


測光ボタン  でのそれぞれの測定後、次のデータがメモリー、表示されます。

- **ZONE** シンボルと最新の測定値が左側ディスプレイに表示されます。
- これまでの測定回数が右側ディスプレイに表示されます。(例では 4 回)
- ゾーンスケール上にこれまで測定された値がプロット表示され (同一値は 1 つ)、最も明るい部分と暗い部分の平均値が点滅表示されます。



測定がすべて終わったら、左側メニューボタン  を押しながらか設定ダイヤルを回して定常光測定モード  にします。 **ZONE** シンボルが点滅し、ゾーン V に対応する露出値が表示されます。フィルム現像用データとして、必要に応じコントラストレンジを記録します。間違っって入射光モードでゾーン測定を行うと、ディフューザーシンボル  が点滅して警告します。

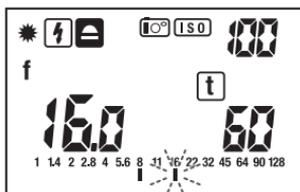
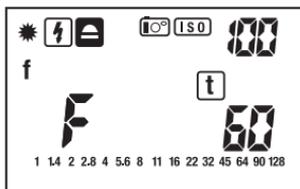


## 9 フラッシュ光モードでの測定

入射光及び反射光両方のモードでフラッシュ光測定が可能です。さらに、シンクロコードの有無に関わらず測光できます。シンクロコードを接続した場合、測光ボタン **M** を押すことでフラッシュは自動的に発光し、測定が行われます。

### 1. フラッシュ光の測定

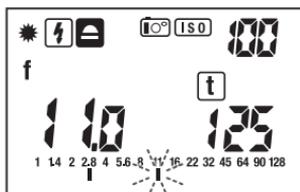
- 右側メニューボタン  を押してフラッシュ測光モード  に設定します。(前回の測定値が表示されます。)
- 設定ダイヤルを回してシャッタースピード (シンクロスピード) を設定します。1 ~ 1/1000 秒の設定ができます。
- 測光ボタン **M** を押します。約 45 秒間 (ディスプレイに F が表示されている間) 測光可能状態となります。
- フラッシュを発光させます。シンクロコードを接続している場合、測光ボタン **M** を押した時にフラッシュは自動的に発光し、測定が行われます。
- 測定された絞値 (フラッシュ光と定常光の合計値) が左側ディスプレイに 1/10 絞単位で表示され、アナログスケールの場合は絞値が 1/2 ステップで表示されます。アナログスケール上に固定表示される値は、定常光部分のみに相当する絞り値です。



### 2. シャッタースピードを変更してフラッシュ光を計算する

測定した結果、定常光部分が希望する割合にならない場合、別のシャッタースピードを使った時の計算を行うことができます。設定ダイヤルを回して異なるシャッタースピードを選択するだけで、新たに測光をする必要はありません。結果はディスプレイに表示されます。

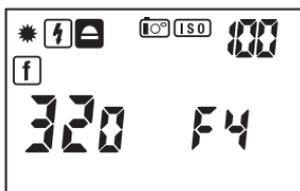
【注意】シャッタースピードを新たに選択する場合、フラッシュの閃光時間より短い時間にならないようにしてください。短くなる場合には改めて測光しなおす必要があります。



### 3. マルチフラッシュ計算

1 回のフラッシュだけでは希望する絞り値に対し光量が不足することがあります。このような場合には、右側メニューボタン  を押しながら設定ダイヤルで **f** を選択します。メニューボタンを離し、希望する絞り値をセットすると、右側ディスプレイに必要なマルチフラッシュの回数が表示されます。(例では F4=4 回)

最大の表示回数は 9 回です。

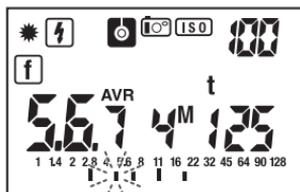


## 4. 平均値測定

- 最初の測定は測光ボタン **M** を押して行います。
- 平均値測定用測光ボタン **AVR** を押すことにより、最大 8 回までの追加測定ができます。測定された値はそれぞれアナログスケール上に表示されます。

同一の測定値は一つしか表示されませんが、平均値を求める計算にはカウントされます。平均値測定用測光ボタン **AVR** が押されるたびに、それまでの測定平均値が表示されます。

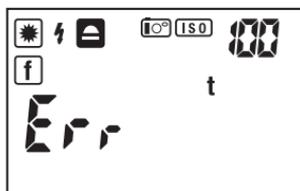
平均値測定を表す **AVR** が左側ディスプレイに表示され、さらに、1/2 ステップにまるめられた絞り値がアナログスケールに点滅表示されます。この場合、定常光部分は表示しません。ディスプレイ中央には、測定回数が表示されます。(図の例では 4 回を示します。)



## 10 測定範囲、表示範囲を超えた場合

### 1. 測定範囲を超えた場合

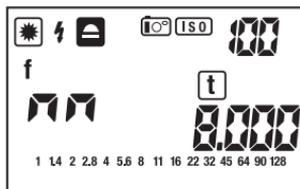
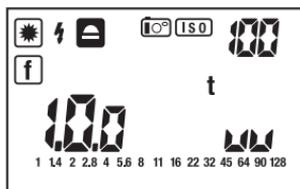
- 測定範囲を超えた場合には有効な測定ができません。
- この場合には、測定中に **Err** (=Error) が左側ディスプレイに表示されます。



### 2. 表示範囲を超えた場合

右側または左側ディスプレイに **LL** または **HH** シンボルが表示された場合は、測定はできているが、表示範囲を超えています。

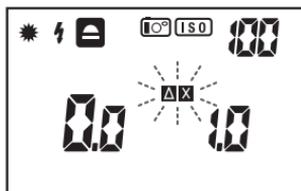
- 設定ダイアルで、表示範囲に設定します。



## 11 補正值の設定

### 1. 補正值の設定

- 2つのメニューボタン(☀️/🔼)を同時に押すことにより、補正值設定モード  $\Delta X$  になります。
- ディスプレイに現在設定されている値が表示されます。
- 設定ダイヤルにより、希望の値を入力します。露出倍数が右側ディスプレイに表示され、補正值は EV 値で表示されます。入力は 1/10EV 単位で行い、± 9.9EV までセットできます。露出時間を長くする場合の補正は、"-・-" が頭に表示されます。



[例]

- 3.1 EV の補正は、露出倍数では 8.6 に相当します。露出時間を短くする場合には、左側ディスプレイの EV 補正值のみが表示されます。

どちらかのメニューボタン(☀️または🔼)を押すことにより、表示された補正值が設定されます。補正シンボル  $\Delta X$  が表示されます。

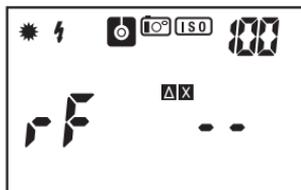
設定された補正值はすべての測定モード(照度測定を除く)で使用されます。

### 2. シャッタースピードを変更してフラッシュ光を計算する

フィルターの補正值などは直接測定することが可能です。この場合、均一で、しかも安定した光源を使用することが必要です。

反射光測定 1°または 5°を使用します。補正值設定モード  $\Delta X$  で測定ボタン(📷)を押して基準値を測定します。左側ディスプレイには、 $r \cdot f$  が表示されます。

次に、対象となるフィルターをビューファインダーの前に置き、測定ボタン(📷)を押します。必要な補正值 (EV) と露出倍数が自動的に表示されます。

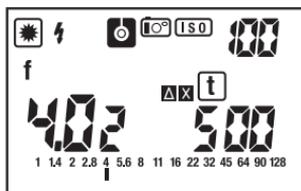


### 3. 補正值のキャンセル

補正值設定モード  $\Delta X$  で行います。

キャンセルには 2つの方法があります。

- 設定ダイヤルで EV 補正值 0 (露出倍数 1.0) にセットする。あるいは
  - 測定ボタン(📷)を押します ( $r \cdot f$  表示)。次に
  - どちらかのメニューボタン(☀️または🔼)を押します。
- 以上で補正值はキャンセルされ、補正シンボル  $\Delta X$  が消えます。



## 12 シネ測定

電池室内部の DIP スイッチ (DIP1) の設定により、スターライト 2 はシネメータ (および照度計) として機能します。

### シネメーター

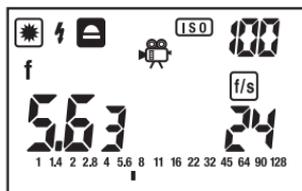
- 反射光測定あるいは入射光測定を選択します。
- 左側メニューボタン  で定常光測定  にします。

### 1. シネスピードの選択

- 左側メニューボタン  を押したまま設定ダイヤルを回し、"f/s" を選択します。ディスプレイに  が表示されます。
- メニューボタンを離し、設定ダイヤルでシネスピードを設定します。
- コントラスト測定、平均値測定も行えます。  
DIP スイッチ (DIP2) の設定により、他のシネスピードも設定可能です。

### 2. シネ測定

- 測定ボタン  を押して測定します。
- 測定された絞り値が左側デジタルディスプレイに 1/10 絞りステップで表示されます。さらに 1/2 ステップにまるめられた絞り値がアナログスケールに表示されます。



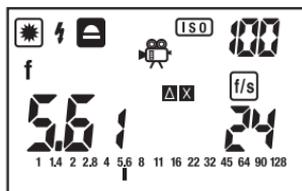
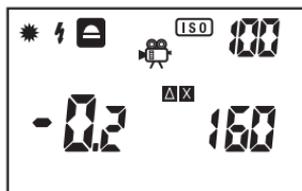
### 3. シャッター角度の設定

シャッター角度は工場出荷時 180° に設定されています。他の角度に使う場合には設定を変更します。面倒な計算は必要ありません。

- 2つのメニューボタン ( および ) を同時に押します。ディスプレイに、現在設定されている角度が表示されます。
- 設定ダイヤルにより、希望の角度を 5° ステップで入力します。
- どちらかのメニューボタン ( または ) を押すことで測定モードに戻ります。変更された角度とともに補正シンボル  が表示されます。

シャッター角度の変更により、すべての測定結果は補正して表示されます。

このシャッター角度補正は照度測定モードでは無効です。また、シネモードで通常の補正值設定はできません。



## 13 照度測定

電池室内部の DIP スイッチ (DIP1) の設定により、スターライト 2 は照度計 (およびシネメーター) として機能します。

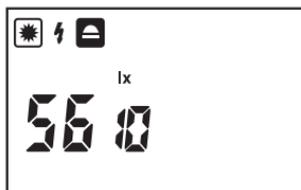
### 1. 照度表示単位の選択

電池室内部の DIP スイッチ (DIP3) の設定により、照度表示単位の選択が可能です。

- lx cd/m<sup>2</sup> : 入射光測定された照度は標準単位 (lx, lxs, cd/m<sup>2</sup>, cds/m<sup>2</sup>) で表示されます。
- fc FL: 入射光測定された照度は英国式単位 (fc, fcs, fl, fls) で表示されます。
- 左側メニューボタン  を押したまま設定ダイヤルで照度測定モードを選択します。ディスプレイに "lx" または "fc" が表示されます。(DIP スイッチ (DIP3) 設定により変わります)

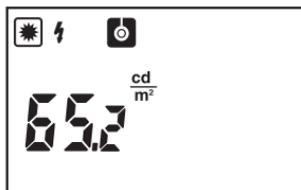
### 2. 照度の測定 --- ルクス (lx) またはフートキャンドル (fc)

- ディフューザーリングを回し、入射光測定、平面ディフューザー  に設定します。(球面ディフューザーに設定すると、エラー表示になり、ディスプレイの  シンボルが点滅します)
- ディフューザーを光源に向け、測定ボタン  を押して測定します。



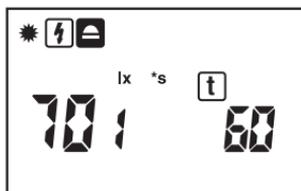
### 3. 光度の測定 --- カンデラ (cd/m<sup>2</sup> またはフートランバート (fl)

- ディフューザーリングを回し、反射光測定  (  )、または、 (  ) に設定します。
- ビューファインダーで測定したい部分を狙い、測定ボタン  を押して測定します。選択された単位とともに測定された光度が表示されます。



### 4. 時間積分値の測定 --- (lxs, fcs, cds/m<sup>2</sup>, fls)

- 入射光測定、または反射光測定に設定します。
- 右側メニューボタン  を押して、フラッシュ測定モード  にします。
- 希望する測定時間を、設定ダイヤルでセットします。右側ディスプレイに表示されます。
- 測定ボタン  を押してフラッシュ光を測定します。(P ○参照)
- 1 秒に換算された値が予め設定された単位で表示されます。設定された測定時間により、定常光 (環境光) も計算されています。



## 14 仕様

測光素子	Sbc シリコンフォトダイオード x2
測定範囲 (定常光、ISO 100)	入射光 EV -2.5 ~ +18 反射光 1° EV +2.0 ~ +18 反射光 5° EV +1.0 ~ +18
測定範囲 (フラッシュ光、ISO 100)	入射光 f1.0 ~ f128 反射光 1° f2.8 ~ f128 反射光 5° f1.4 ~ f128
フィルム感度設定範囲	ISO 3 ~ ISO 8000
絞り設定範囲	f0.5 ~ f128
シャッタースピード設定範囲	標準スピード系列：1/8000 秒～ 60 分 その他： s：1/6000、1/3000、1/1500、1/750、1/350、 1/180、1/90、1/45、1/20、1/10、1/6、1/3、 1/0、7、1.5、3、6、10、20、45 m：1.5、3、6、10、20、45 フラッシュシンクロスピード：1 ~ 1/1000s
シネスピード	標準系列：8、12、16、18、24、25、30、50、64 その他： 2、3、4、6、36、40、48、60、72、96、120、 128、150、200、240、255、300、360
マルチフラッシュ	最大 9 回
電池	1.5V 単三乾電池 1 本
外形寸法	164 x 66 x 26 mm
重量	195 g
使用温度範囲	-10° C ~ +50° C
保管温度範囲	-20° C ~ +60° C

GOSSEN 日本総代理店



株式会社駒村商会

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町 3-2-4 駒村ビル

TEL.03-3639-3351 FAX.03-3808-0115

[www.komamura.co.jp](http://www.komamura.co.jp)

- "GOSSEN" "ゴッセン" はドイツ、ゴッセン社の登録商標です。
- この取扱説明書に記載の製品に関する外観・仕様などは予告無しに変更する場合があります。